



## 環境

# 2019年度 商社のESG推進活動

日本貿易会法人正会員は、ESG推進活動に積極的に取り組んでいます。各社の事業活動を通じた環境貢献、ESGに関する理解促進に向けた活動、地域における環境保全活動をご紹介します。（社名五十音順）

### 1. 事業活動を通じた環境貢献

#### 兼松

##### ギニアにおけるカカオ栽培プロジェクト

JICA事業として、ギニア共和国において森林保全に配慮した高品質カカオの普及・実証・ビジネス化事業に取り組んでいます（履行期間2019年9月～2022年5月予定）。焼き畑移動耕作や家庭用のまきの収集を目的



カカオ農家へセミナー開催（兼松提供）



学校帰りにまきを持ち帰る少年（兼松提供）

とした伐採等による森林減少が問題となっているギニアの貧困農家に対して、高品質カカオが集荷できるようアグロフォレストリーによるカカオ栽培と発酵・乾燥処理技術をギニア国立農業研究所の研究者らと協働で指導する計画を立案しました。カカオの高品質化による農家の収入向上を目指すとともにアグロフォレストリーによるカカオ栽培を行うことで、カカオ栽培からチョコレートの流通までのバリューチェーンを新たに構築し、同時にグリーン資金を調達して気候変動対策としての当プロジェクトの持続性を一層高めることも計画しています。引き続き、持続的な森林保全の実現に寄与していきます。

### 2. ESGに関する理解促進に向けた活動

#### 岩谷産業

##### 「住みよい地球」作文コンクール、「水素エネルギー教室」の開催

2019年10月29日、「住みよい地球」全国小学生作文コンクール2020の最終審査会を開催し、全国687校6,163作品の中から、最優秀賞2作品をはじめ、個人賞や学校賞の各賞を決定しました。

今回で11回目の開催となった当コンクールは、環境省、文部科学省、全国連合小学校長会などから後援いただいております。「住みよい地球」をキーワードに、環境に優しいエネ





燃料電池自動車からは排ガスの代わりに水が排出されるとの説明に興味津々の子供たち（岩谷産業提供）

ルギーや大好きな自然などの参考テーマに基づいて応募いただいています。

12月から2月にかけて上位5校で表彰式を行うとともに、希望のあった4校においては「水素エネルギー教室」を開催しました。クリーンエネルギーである「水素」に関する身近な実験を通じて、子供たちに地球温暖化を防ぐことの大切さを感じてもらった貴重な機会となりました。

世界的に水素エネルギー社会実現に向けた動きが活発化する中、当社では、次代を担う子供たちへの啓発活動や、「イワタニ水素エネルギーフォーラム」の継続的な開催などを通じて、今後も多くの方々との幅広い情報交換を行っていきます。

## 興和

「サプライチェーン人権リスクセミナー」の開催

2020年2月10日および2月12日、名古屋本店および東京支店において、認定NPO法人ACEから講師を招き、「サプライチェーン人権リスク研修」を実施しました。海外取引に関係する部署の社員63人が参加しました。

世界的にSDGsが浸透しつつある中で、自社のサプライチェーンにおいてどのような人権リスクがあり、どのような行動をとるべきか再確認することを目的に、近年の現代奴隷の実態、各国での法制化の動き、ESG投資や国連責任銀行原則の発足を含めた金融業界の動向などを講義とグループワークを通じて学びました。

参加者からは、「日頃は自分の業務のことしか注意が向かないが、視野が広がった」「企業は利益追求になりがちだが、このような研修から個人の意識が変わっていくと感じた」などの感想がありました。人権リスクをテーマとして異なる部署の社員が議論する機会となり、さまざまな視点での新しい発見があったように思います。



「サプライチェーン人権リスクセミナー」の様子（興和提供）



## 住友商事

### ESG コミュニケーションブック 2020 を公開

2020年8月、「ESG コミュニケーションブック 2020」を公開しました。当社は、統合報告書やウェブサイトを通じて財務・非財務情報を開示しておりますが、持続可能な社会の実現への関心の高まりを受け、「ESG コミュニケーションブック」では、より充実した非財務情報を一元的に開示し、さまざまなステークホルダーとの有効なコミュニケーションのためのツールとしています。

今回の改訂版では、当社グループが一丸となって推進している「サステナビリティ経営の高度化」、気候変動問題や人権問題をはじめとした、重要な各種社会課題への対応方針や取り組み事例を詳細に掲載するなど、さらに充実したESG情報を掲載しています。

今後も、年次での定期的な更新だけでなく、各課題への取り組み状況の進捗<sup>しんちよく</sup>に合わせ、適切なタイミングで更新し、積極的に情報を開示していきます。ぜひ一度ご覧ください。

URL：<https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/sustainability/report>



ESG コミュニケーションブック 2020  
(住友商事提供)

## 丸紅

### 脱プラスチックに向けた取り組み

サステナビリティ推進の一環として、プラスチックごみ問題の改善に向け、ビジネスのみならず職場においても取り組みを行いました。

2019年7月より、東京本社の来客応接フロアと社員用カフェテリアで利用しているストローを、プラスチック製から紙製に変更しました。当該ストローは、当社の事業会社が販売する「安全・安心・高品質」をコンセプトとした純国産品で好評を得ています。

2019年8月には、東京本社にて、社員やその家族向けにごみ問題に関する講演会を行いました。講師としてM-1芸人と清掃員の二足のわらじを履くマシンガンズ滝沢秀一さんをお招きし、プラスチックごみ問題をはじめ、日本のごみ問題の現状を解説いただき、警鐘を鳴らしていただきました。

また、東京本社にて社員向けにエコバッグも配布しました。丸紅は、引き続きサステナビリティ推進の取り組みを、ビジネスのみならず、普段の職場環境も通じて実践していきます。



エコバッグ、紙ストローなど脱プラスチック関連製品  
(丸紅提供)



### 三井物産

#### サステナビリティ経営浸透に向けた取り組み

当社は6月をサステナビリティ月間と定め、講演会を開催する他、サステナビリティ経営の浸透に向けたさまざまな取り組みを行っています。

2019年度は、キャスター・慶應義塾大学特任教授・国連食糧農業機関親善大使の国谷裕子氏による講演会「SDGsが社会を変える～企業に期待するもの」を開催し、約140人の役職員が参加しました。講演では、SDGs達成に向け民間企業へ期待することとして「課題解決のための創造性とイノベーション」を挙げ、「どうポジティブインパクトを増やしながらかネガティブインパクトを減らしていくのかという『トランスフォーメーション』を目指す時代」とのメッセージが発信されました。参加者からは「SDGsに関する知識が深まった」「事業活動にSDGsの視点を取り込んでいきたい」「オフィスでのエコ活動から始めていきたい」といった声が寄せられました。



国谷裕子氏講演の様子（三井物産提供）

### 3. 地域における環境保全活動

#### 伊藤忠商事

#### 「第2回小笠原諸島・父島 アオウミガメ保全ツアー」を開催

社会貢献活動基本方針の一つである「環境保全」の一環として、またSDGs目標14「海洋生態系の保護」、15「生物多様性損失の阻止」の達成にも寄与する活動として、2016年度より、海洋生物・海洋環境の保全を目的とし活動する認定NPO法人エバーラスティング・ネイチャー（ELNA）を通じ、絶滅危惧種であるアオウミガメの保全活動を支援しています。この活動への理解を通じた環境保全の意識醸成を

目的に、日本最大のアオウミガメ繁殖地である小笠原諸島・父島にて、2018年に続く2回目となる「アオウミガメ保全ツアー」を実施しました（2019年7月23～28日）。当社社員



アオウミガメ保護ポスター  
（伊藤忠商事提供）



アオウミガメと一緒に記念撮影（伊藤忠商事提供）





左側、緑のジャンパーを着た列が岡谷鋼機の参加者です（東京ステーションシティ運営協議会 提供）

と家族ら10人が参加し、ELNAが運営する小笠原海洋センターのウミガメ教室での学習、ウミガメへのエサやり、甲羅磨き、さらに夜間の産卵視察、稚ガメの放流などを体験しました。

### 岡谷鋼機

#### 事務所周辺の清掃活動

地域貢献の一環として月1回始業前30分、名古屋本店および大阪店周辺の清掃活動を毎回社員有志20～30人にて各部署持ち回りで実施しています。

また東京本店では、2019年4月18日に第12回「東京エキマチ キラピカ作戦」に参加しました。これは東京駅周辺エリアで働く人などによる合同清掃活動であり、今回は全体

で72の企業・団体から合わせて811人が参加しました。当社は2017年11月に行われた第9回以来4度目の参加で、東京本店丸の内中央ビルで働く社員の3分の1超に当たる約60人が参加し、朝8時30分から約1時間かけて東京駅周辺の清掃活動を行いました。近隣の企業と共同で地域の美化に貢献することができ、すがすがしい気持ちになりました。現在は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため各種活動ができておらず残念ですが、今後も清掃活動を通して地域の環境美化のお手伝いを続けていきます。

### JFE商事

#### 本社地区千代田区一斉清掃に参加

2016年より年2回、日頃お世話になって





千代田区一斉清掃参加者（JFE商事提供）

いる地域への貢献として、千代田区が行う「千代田区一斉清掃の日」に合わせJFE商事ビル周辺の清掃活動を行っています。

2019年は6月12日・11月13日に実施し、当社グループ社員有志が始業開始前の朝8時に集合し、地域の歩道や公園の清掃を行いました。短時間でも多くのごみが回収され、参加者からも「普段気付かなかったが実際には多くのごみがあることが分かった。ごみに対する意識が高まった」「清掃活動を通じ街に対する愛着が湧いた」といった意見が寄せられ、参加者の意識を変えるいい機会となりました。2016年6月開始当時は15人だった参加者は2019年11月には35人を数え、今後も清掃活動をより活性化させ地域貢献を継続していきます。

## 双日

海ごみセミナーと城南島海浜公園にて海ごみ拾いを実施

海ごみ、特にマイクロプラスチックの問題をテーマに、一般社団法人JEAN（環境NGO）の協力の下、2019年9月27日に海ごみに関する社内セミナーを開催の上、10月6日、城南島海浜公園で海ごみ拾いを行いました。

社内セミナーには、グループ役職員約50人が参加。当グループがこれまで関与してきたプラスチック普及の歴史やマイクロプラスチックの危険性や海ごみが漂流することで引き起こされる問題について触れた上で、プラスチックに対してどう向かい合っていくべきか、意見交換が行われました。





城南島海浜公園での清掃ボランティア参加者（双日提供）



海ごみセミナーの様子（双日提供）

海ごみ拾いには、27人が参加し、約400mにわたる浜辺のごみを4班に分かれて収集。その後、ごみを分別し、カテゴリーごとにごみの数を計測しました。

参加者からは、「いかにプラスチック関連のごみが多いかを実感した」「あまりにも細か過ぎて拾うことすらできない大量のマイク

ロプラスチックごみがあり、どうすることもできない現状に「がくぜんとした」などの感想が述べられました。

#### 豊田通商

「藤前干潟クリーン大作戦」「東山植物園 花いっぱいプロジェクト」への参加

2019年度は、まず5月18日に「藤前干潟（中堤）クリーン大作戦」に参加しました。藤前干潟はラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録されている世界有数の渡り鳥の飛来地です。河川の上流から漂着するペットボトル、ビニール袋、発泡スチロールなどのごみが干潟の生態系をおびやかしているため、年2回「藤前干潟クリーン大作戦」が開催されてお





「藤前干潟(中堤) クリーン大作戦」の様子(豊田通商提供)



「東山植物園 花いっぱいプロジェクト」の様子  
(豊田通商提供)

り、ごみ回収を通じて環境保全を図っています。当日は当社およびグループ会社(家族を含む)から14人が参加。45Lごみ袋換算で2,023袋のごみを収集しました。干潟には収集しきれないごみが残されており、多様な生物の生息地である干潟を保全するため継続して取り組んでいきたいと考えています。

また、11月9日には「東山植物園 花いっぱいプロジェクト」に参加しました。東山動植物園が「東山動植物園再生プラン」の一環として、企業や市民からの協力を募り、植物園の花壇に苗の植え付けを行う活動で、当社およびグループ会社(家族を含む)から31人が参加して、自社で購入したビオラの苗(438株)とチューリップの球根(247個)を植え付けました。参加者からは、「親子で

自然と触れ合うことができ、良い機会になった」「苗を植えることで、自然の大切さを再認識することができた」などの感想がありました。

## 阪和興業

### 熊野古道・道普請

2020年2月1日、社員26人が参加し、和歌山県田辺市本宮町の伏拝王子付近において、和歌山県商工観光労働部の協力を得て、熊野古道の修復作業を行いました。

熊野古道は、世界遺産指定の「紀伊山地の霊場と参詣道」であり、熊野本宮大社を中心とした各所を結ぶ参詣道です。日本でも有数の降水量が観測される地域のため、雨による道の損壊が著しく、直し手不足の影響もあり、



古道近くでの土の準備作業(阪和興業提供)



古道での整地作業(阪和興業提供)



修復作業による保全が必要となっています。

今回3年目の作業にて前回修復地点へと続く古道の修復を行いました。土2tを手配し、修復地点に向かう古道入り口近くに準備後、手箕に土を詰め、約50m先の修復地点まで徒歩で運び入れます。その後、タコ（土を固める用具）にて繰り返したたく作業を行い完成します。大雨の影響により崩れた古道入り口部の修復が実施でき、達成感とともに作業の意義を実感することができました。今後も継続した活動にしていきます。

### 日立ハイテク

「日立ハイテクやさとの森」で育林活動を実施

当社グループは、茨城県石岡市に約2.3haの国有林を借り受け、「日立ハイテクやさとの森」と命名し、2005年から60年間にわたる育林活動に取り組んでいます。

2019年5月11日に、樹木の余分な枝を切り落とす「枝打ち」と混み過ぎた立木の一部を伐採する「間伐」を、茨城森林管理署と芳賀地区森林組合の協力の下、当社グループ社員有志とその家族総勢36人が実施しました。

「枝打ち」は、節がなく丈夫な木を育てるために必要です。また、木々の成長により地面に日が当たらなくなると、下草が生えなく



間伐作業の様子（日立ハイテク提供）



参加者全員での集合写真（日立ハイテク提供）